

なにわ  
浪華八百八橋 — いまむかし

大阪は、淀川と大和川の河口部に発達してきたまち。そのまち並みは、縦横に走る川や堀によって形づくられており、昔から数多くの橋が架けられてきた。

「浪華八百八橋」は、橋が市街地の発展に大きく寄与してきたことを言いあらわしたものであろう。

今日でも、地下鉄の駅名や主要な地点に橋の名が多く使われており、橋が大阪のまちと密接な関係にあることを物語っている。

日本橋



明治時代の木橋



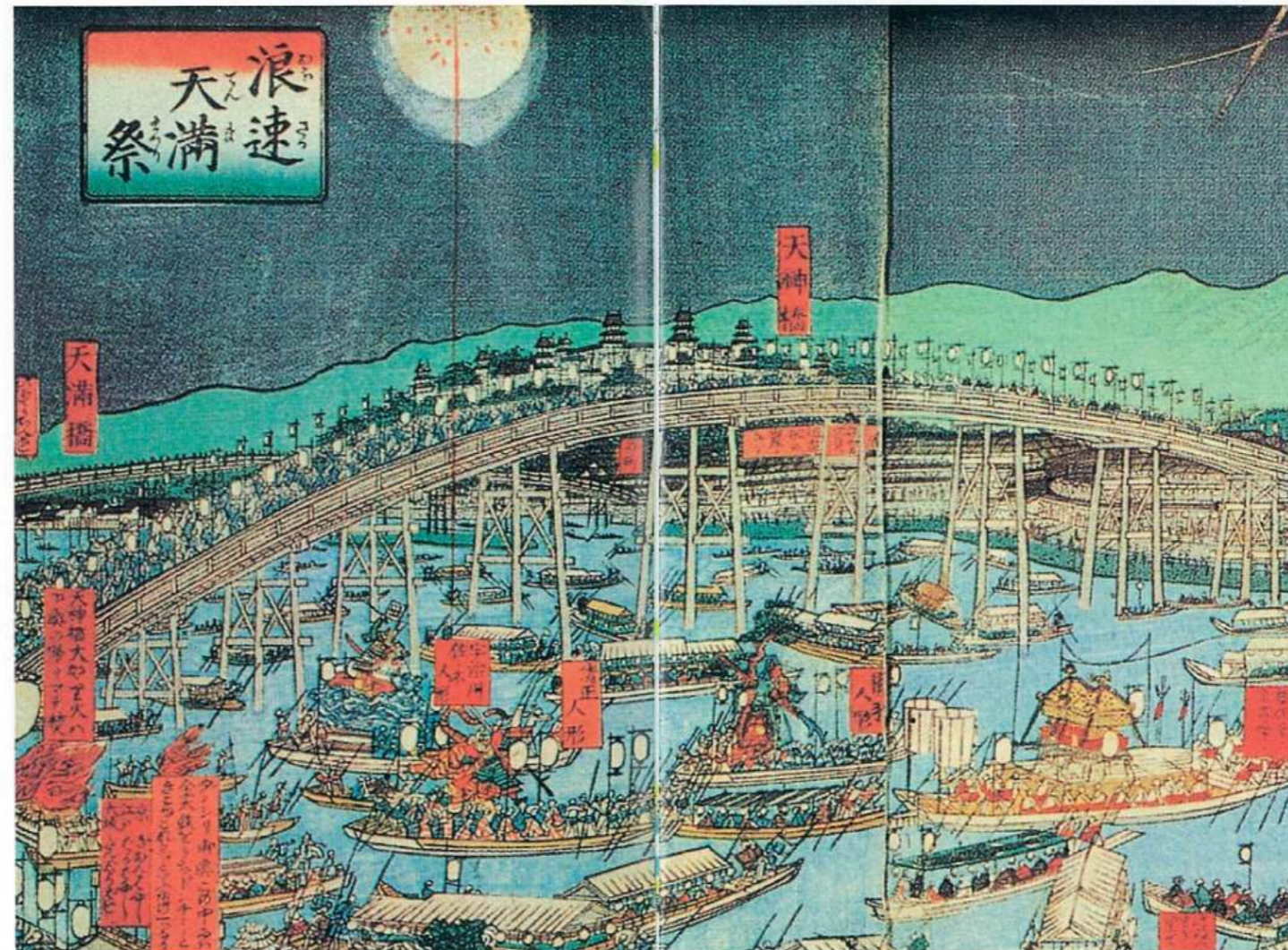
明治45年架け換えられた鉄橋



現在の橋



現在の橋



「浪速天満祭」部分 五雲亭貞秀画（サントリー美術館蔵）

梅壇木橋



明治時代の木橋

天満橋



明治時代の木橋



明治18年の淀川大洪水のあと、明治21年に架け換えられた鉄橋。



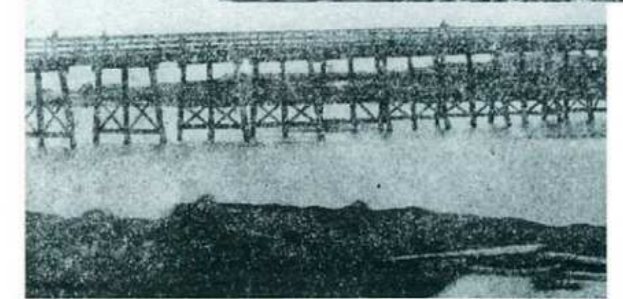
現在の天満橋  
昭和45年に新天満橋が架けられ、「天満重ね橋」と呼ばれている。



現在の橋

難波橋

市電事業によって架け換えられた橋（大正4年）。



明治時代の木橋

天神橋



明治時代の木橋



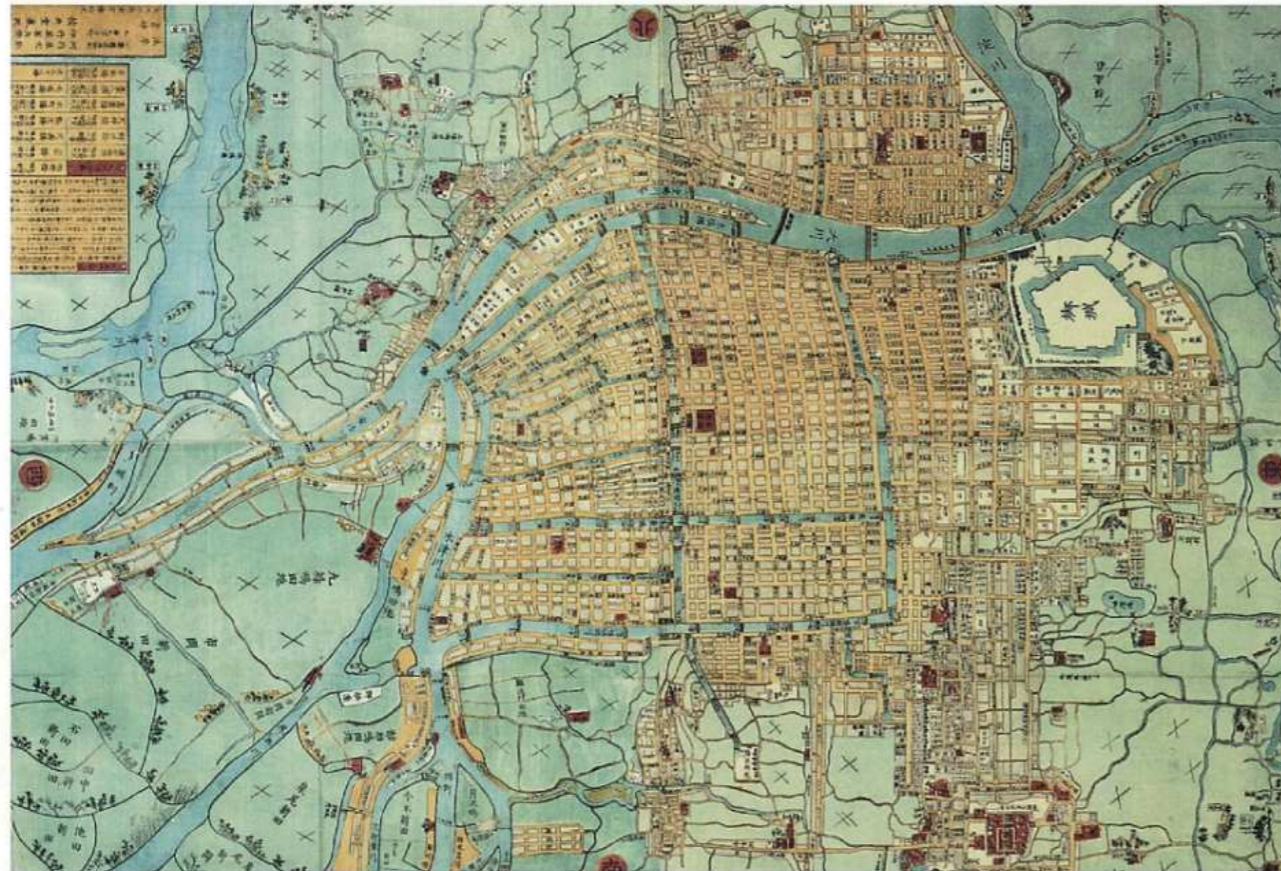
明治18年の淀川大洪水のあと、明治21年に架け換えられた鉄橋。



現在の橋

# 江戸時代の橋 — 絵図にみる人々の暮らしと橋

江戸時代の大阪は、古地図によってその状況を知ることができる。縦横にめぐらされた川や堀に架けられた数多くの橋がそこに記されている。また、橋は観光の名所ともなり、画題としてもよく取り上げられた。これらによって往時の橋の姿かたちが偲ばれ、人々の橋への愛着もうかがうことができる。



「改正増補国宝大阪全図」部分 (文久3年) (大阪城天守閣蔵)



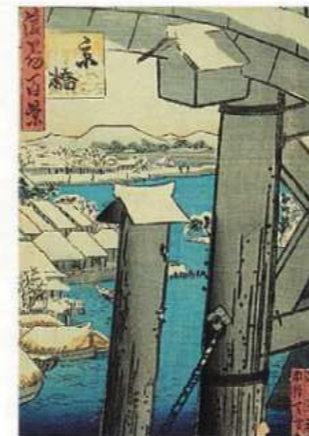
「玉江橋景」歌川国貞(大阪城天守閣蔵)  
堂島川に架かる橋。遠方に見えるのは四天王寺の五重塔。



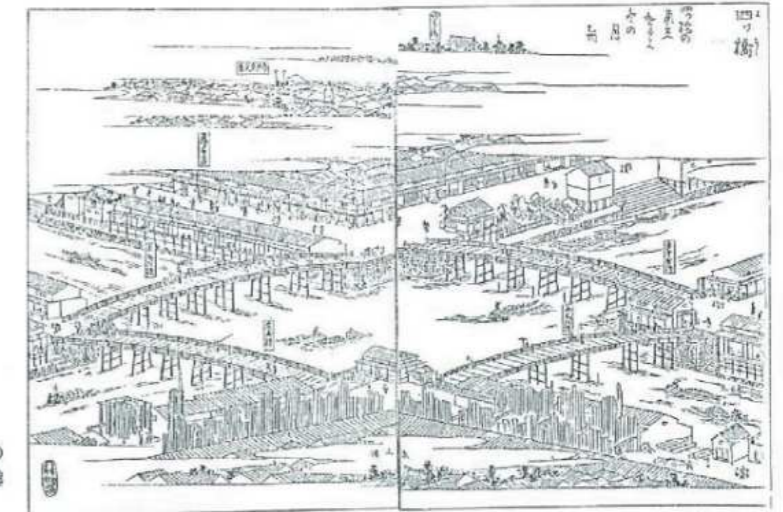
「道頓堀太左衛門橋雨中」南村芳雪画(大阪城天守閣蔵)  
名代(芝居の興行権保有者)のひとり大阪太左衛門にちなんで命名されたという。



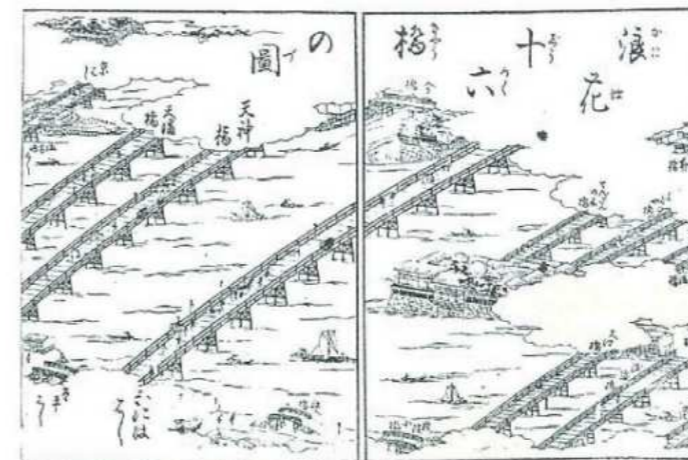
「今橋つきちの風景」歌川国貞画(大阪城天守閣蔵)  
八軒家と北浜を結び、多くの人々でにぎわった。



「京橋」南村芳雪画(大阪城天守閣蔵)  
京街道の起点で寝屋川に架けられていた。



四ツ橋「摂津名所図会」より  
西横堀川と長堀川の合流点に架かっていた四つの橋の総称。吉野屋橋(右上)、上鞆橋(右下)、下鞆橋(左上)、炭屋橋(左下)。(大阪歴史博物館蔵)



浪花十六橋の図「浪花のながめ」より  
難波橋(中央の橋)上から見える橋をあらわしたもの。(大阪府立中之島図書館蔵)

「浪華橋々繁栄見立相撲」(大阪府立中之島図書館蔵)  
天保12年大阪の橋々を相撲の番付に見立てて紹介。



「大川眺望図」小斎田順  
手前から天満橋、天神橋、難波橋。(大阪歴史博物館蔵)

